

# 活動報告書

報告者氏名：笠井 真由美

所属：長野県伊那養護学校

記録日：2012年 12月10日

## 【対象児の情報】

・ 学年  
小学4年生 女児 1名

・ 障害名  
脊髄性筋萎縮症

・ 障害と困難の内容  
筋力が弱く、体を動かすことに困難が生じる。

## 【活動の目的】

・ 当初のねらい

全身の筋力が弱く、学習に対する意欲はあるが思うように体が追いついていかない現状があった。iPadを活用することにより学習の効率化を図ると共に、同じレベルの子供達と関わる機会があまりない中で関わる機会をもうけ、生活にどのような変化がもたらされるか観察することにした。

・ 実施期間

一年間を通して日記の交換を行った。

・ 実施者

笠井真由美（教師）

・ 実施者と対象児の関係

担当教員

## 【活動内容と対象児の変化】

・ 対象児の事前の状況

学習する際は鉛筆を利用しているが、筋力が弱いため筆圧が弱く思うように書けないことが多かった。

・ 活動の具体的内容

「ぼくらの交換日記」を使い日記を交換した。これにより、日記の提出をタッチ操作で行うことができるので、日記に限らずメールのように思ったことをすぐに発信できるので、コミュニケーションを円滑に行うことができると考えた。また、写真を添付することや仲間を増やすことができるので、友達を誘うこともできるので、友達作りに良いのではないかと考えた。

・ 対象児の事後の変化

情報がすぐに伝わるため、やりとりが盛んになった。友達を交換日記の仲間に入れ交換する姿がみられた。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

対象児はこれまで日記帳にて自分の想いを伝える姿があったが、iPad を使うことで以前よりやりとりが頻繁になったように感じられる。写真を送ることができるので、やりとりが円滑になったように感じられる。また、友達を誘うことができるので様々な面で勉強になっている様子がある。

### ・その他のエピソード

写真を撮り日記を書く際に添付し交換日記の要領で、返信を書き提出物として活用した。脊椎性筋萎縮症の児生のため力の入りにくさからくる、書くことの困難さはiPadの平面上のキーボードを打つことで軽減され、以前よりも提出率が上がった。提出の場面でも、一人で操作することができるため、達成感へ繋がったと思われる。

アプリケーション内において日記交換時にポイントがあり、ポイントはアプリケーション内の「自分の部屋」のような物の模様替えのグッズと交換することができるので、交換することへの意欲に繋がったと思う。

アプリケーションの特性として、どちらかが受信している状態だと、他の人は過去の日記の内容を見ることができないので、日記の返信への期待感と学校で行う提出ノートと同じような感覚を得ることができたと思われる。また、日記の提出の際に写真自分で撮り添付することで、文章だけでは伝えきれないことが伝えられ、写真を通して他児との関わりも生まれてきている様子もあり今後も活用したいと感じる。

試験的ではあるが他の学校の児童とも交換日記をしている。他校の様子を知ることができたり、自分以外の意見をきいたりする貴重な活動になってきている。

